

情報ボックスNo.3のテーマは「座位保持椅子」です。

前回に掲載した通り、車いすの用途は移動であるため、長時間座っていると身体に負担がかかります。そこで、移動をせず、特に作業や学習をしているときに使用しているものが座位保持椅子です。今回は座位保持椅子の種類や注意点についてお伝えします。

座位保持椅子とは

人は体幹が安定するからこそ、顔を上げて首を動かし、手を動かすことができます。「座位保持椅子」とは、障がいのために体幹が不安定で座位をとることが難しい児童・生徒にも、座位をとれるように腰と胸にベルトがついている椅子のことです。

ベルトにより体幹を支えることができ、さらに、車いすのように座面の前方が上がっておらず、車いすに比べて前かがみになりやすいため、手が動かしやすくなり、学習や食事に適した姿勢がとれます。また、種類によりますが、身体と接する部分も使用者の身体の状態に合わせてすることができます。

座位保持椅子の種類

普通型	外観は一般的な椅子に最も近い。角度の調節はないが、成長に応じて座面の高さや奥行きなどの寸法調節ができる。
リクライニング式 普通型	座面や背もたれがリクライニングすることができる。姿勢保持が困難な場合、座面、背もたれおよび足台をほぼ直角に固定した状態で傾斜することが多い。
モールド型	使用者の座る面を採型して型を作り、これにプラスチックを当てて成形したもの。バケットシートと呼ぶこともある。内側にクッションと布でカバーを付けて用いる。身体の変形が強い場合に適している。
可変調節型	樹脂製のユニットをネジでマトリックス状に連結し、使用者の身体に密着にする形に調節することができる。成長や障がいの変化に対応できる反面、調節が繁雑で適合が難しい。

特徴

これらの座位保持椅子は、児童・生徒の成長に対応して調節ができる、用途に応じて角度が調節できる、障がいに対応したアタッチメントが装着できる、などの利点があります。一方、モールド型は構造的に調節ができないので、成長期の児童・生徒は短期間で作り変える必要があります。

移動時以外は「座位保持椅子」を使用し、児童・生徒が気持ちよく生活できるようにしましょう。